

「わたしは、よみがえりです。いのちです。」

ヨハネの福音書 11章 25節

2024.3.31 浜寺礼拝

主イエス・キリストのよみがえりの真実性・内容またその意味を考えましょう。

1. 神の啓示

出エジプト3：14「わたしは『わたしはある』という者である。」

「I AM WHO I AM.」

2. イエス・キリストの啓示

ヨハネ11：25「わたしは、よみがえりです。いのちです。」

わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」

ヨハネ11章の「ラザロのよみがえり」の記事は、他の3つの福音書には記されていません。他の福音書に記されている記事

a. 会堂管理者ヤイロの娘の復活

マタイ9：18～26, マルコ5：21～43, ルカ8：40～56

b. ナインの町でのやもめの息子の復活

ルカ7：11～17

A. ラザロの死と復活の2つの意味

① ラザロの復活は、25節で「わたしは、よみがえりです」と言われたイエス様自身もよみがえることとした。

② ユダヤ教指導者が、決定的な行動を取る原因となった。

53節「そこで彼らは、その日から、イエスを殺すための計画を立てた」

3. イエス・キリストの復活

「使徒の働き」に記されているメッセージの多くが「イエス・キリストの復活」を中心的教理また決定的な事実として伝えている。

使1：3「イエスは苦しみを受けた後、四十日の間、彼らに現れて、神の国のことを語り、数多くの確かな証拠をもって、ご自身が生きていることを使徒たちに示された。」

ペテロのメッセージ

使2：23～24

使2：32「神はこのイエスをよみがえらせました。」

私たちはみな、そのことの証人です。」

パウロのメッセージ

使13：27～31

A. 復活の真実性

① イエス様自身による言明

マタイ16：21「その時から、イエス・キリストは、ご自分がエルサレムに行って、長老、祭司長、律法学者たちから多くの苦しみを受け、殺され、そして、三日目によみがえらなければならないことを弟子たちに示し始められた。」

マタイ17：22～23「彼らがガリラヤに集まっていたとき、イエスは彼らに言われた。『人の子は、いまに人々の手に渡されます。そして彼らに殺されるが、三日目によみがえります。』」

マタイ20：18～19

(参) マルコ8：31, 9：31, 10：33～34

ルカ9：22, 9：43～45, 18：31～34

② 空となっていた墓 He is not here, he has risen.

マタイ28：6「ここにはおられません。前から言っておられたようによみがえられたからです。」

(参) マルコ16：6, ルカ24：6, ヨハネ20章

このただ一つの答えは、イエス・キリストは事実よみがえった。

1コリント15：3～8

③ 弟子たちの変化

a. ペテロ 十字架前に主を否んだ

b. 主の兄弟ヤコブ 復活された主にお会いし、主を信じる

c. パウロ 迫害する者から宣べ伝える者へ

B. 復活の内容

- ① 主イエス・キリストは神の御子である

マルタの信仰告白

ヨハネ11：27「はい。主よ。私は、あなたが世に来られる神の子キリストである、と信じております。」

ローマ1：4（2017年版）「聖なる霊によれば、死者の中からの復活により、力ある神の子として公に示された方、私たちの主イエス・キリストです。」

- ② 主イエス・キリストは「死」に勝利する権威がある。

ヨハネ11：43～44

- ③ 主イエス・キリストは「永遠のいのち」を与える権威がある

ヨハネ17：2（2017年版）「あなたは子に、すべての人を支配する権威を下さいました。それは、あなたが下さったすべての人に、子が永遠のいのちを与えるためです。」

C. 復活の意味

- ① 私たちクリスチャンもよみがえる

Iコリント15：20～23

「よみがえられました」— 受身、完了形

受身は御父の行為を表わし、完了形はこの状態の永続性を表わす。

「初穂」— 収穫の最初のもの

（参）レビ23：10～11

ローマ4：25「主イエスは、私たちの罪のために死に渡され、私たちが義と認められるために、よみがえられたからです。」

- ② すべての人がよみがえる

ヨハネ5：28～29「このことに驚いてはなりません。墓の中にいる者がみな、子の声を聞いて出て来る時が来ます。善を行なった者は、よみがえっていのちを受け、悪を行なった者は、よみがえってさばきを受けます。」

ウィリアム・バークレー

「復活は起こり、そして死後人間に起こることは、当然彼がこの世において行ったことと、密接な関係がある、というのがイエスの教えである。

（中略）

現在の人生の戦慄すべき重要性は、この人生が永遠を決定するということである。生涯を通じて、われわれは来たるべき命の準備をしているか、そうでないかのどちらかである。また、われわれは、神の臨在の準備をしているかそうでないかのどちらかである。

現在の人生において、われわれは命に至る道を選ぶか、それとも死に至る道を選ぶことができるかである。

われわれが、この人生でなすあらゆる行為は（中略）王冠を勝ち取るか失うかのどちらかであるというのは、驚くべき真理である。」

ヨハネ6：38～40